令和４年度

事業報告書

社会福祉法人　三恵会

事業報告目次

三恵会本部	１～　２
特別養護老人ホーム　きぼうの苑	３～　４
障害者支援施設　あゆみ苑	５～　６
ケアハウス　夢テラス	７～　８
障害者支援施設　三恵ホーム	９～１０
児童福祉施設　十全保育園	１１～１３
特別養護老人ホーム　ハートランド三恵	１４
老人保健施設　リハビリステーション三恵荘	１５～１６
老人保健施設　希望の館	１７～１８
通所介護事業所　おいでんや	１９～２０
多機能型事業所　わくわくクラブ	２１～２２
地域子育て支援事業（ひろば型）　にこちゃんパーク	２３～２５
地域密着型特別養護老人ホーム　うみかぜ	２６～２７
グループホーム　かがやき	２８～２９
児童福祉施設　中萩保育園	３０～３３
養護老人ホーム　慈光園	３４～３５

三 恵 会 本 部

令和４年度　事業報告

１．経営方針

令和４年度は、社会福祉法改正後６年目となり、社会福祉法人に求められている「経営組織のガバナンスの強化」、「法人運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」について、経営の主体となる「理事」、「理事会」、「監事」、「評議員会」が有効に機能するよう運営を実施してまいりました。

「ガバナンスの強化」では、理事会を６回、評議員会を２回開催し、事業計画、予算、給食業務委託契約、新賃金制度に関すること、中萩保育園の建替えに伴う各種契約、各種規程、定款変更など重要事項に対し、審議・決議をしてまいりました。

「財務規律の強化」では、会計監査人の導入により、財務情報や社会的な信頼性の向上だけでなく、経営上の問題点も把握でき業務改善に有効に機能しております。今年度の保育園の建設会計を除く、本業利益は２億４，３１０万円、当期最終利益は、１億４，４９５万円となり、ともに増益となりました。

「適正な給与制度の構築」では、令和３年１１月、令和４年１月、３月に説明会を実施し、４月より新制度へ移行できました。この制度の目的である、将来に向けて長く働ける職場と活躍できる制度、「働きやすさ」、「働きがい」の実現に向けて引き続きコンサルタント会社の支援も受けながら進めてまいります。

中萩保育園の建替えについては、４月に「保育所等整備交付金」の内示後、所定の手続きを経て、令和４年８月から着工し、２月１５日に引き渡しを受けました。その後、引っ越しを行い、２月２０日から新園舎での生活がスタートしました。５月には、園庭、遊具、駐車場等の整備が完成いたしました。

２．重点課題と具体的な取り組み

（１）人事考課制度の見直しと適正な給与制度の構築

・新制度に移行する年度であり、コンサルタント（OAG ビジコム）の支援を受けながら、スムーズな導入、運用を目指す。また、評価制度の研修会を実施する。

➡理事長、施設長、職員への説明会を実施し、令和４年３月の理事会で承認され、新制度へ移行できた。また、新人事考課制度による評価を実施した。

運用については、コンサルタントとも連携をとりながら進めることができた。今後は、評価者に対する研修について検討していく。

（２）中萩保育園の建替え工事

・令和４年４月の内示を受け、資金計画、一般競争入札の実施、契約、各諸手続き、工事の着工から竣工まで、スムーズに行えるようスケジュール管理を徹底する。

➡短い工期ではあったが、スケジュール管理をしっかり行い、各関係機関の協力も得ながら、事務手続き等スムーズに対応することができた。

（３）人材確保の取り組み

・安定的な法人運営のためには、職員の確保が必要不可欠である。対面だけでなく、学生が参加しやすいよう Zoom 等を活用したオンラインによるインターンシップ、企業説明会、面接等の実施。

➡コロナ禍の中、感染対策を徹底し、学校訪問やオンラインでの企業説明会、インターンシップ等を行い、新規学卒者５名を採用することができた。

・奨学金貸与事業により、介護福祉士・保育士を目指す学生に対し、就学に必要な学費の一部を奨学金として貸与することにより、優秀な人材を長期的に確保する。４年度は介護職員１名を目標とする。

➡令和４年度は、確保につながらなかった。

３、研修計画

（１）法人内研修（オンライン研修）

階層別研修（日本経営）

若手層向け研修

第１回　令和４年　６月２８日　参加者１４名

第２回　令和４年　７月２８日　参加者１２名

第３回　令和４年　８月３０日　参加者１４名

若手層　フォローアップ研修

第１回　令和４年　８月３１日　参加者７名

第２回　令和４年　９月３０日　参加者７名

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

きぼうの苑　令和４年度　事業報告

１．運営の概要

令和４年度は、入所施設で二度にわたる約４カ月間の新型コロナウイルス感染症クラスターにより、経営面において大きな損失を受け、取り組み等についても制限を余儀なくされました。また、感染症の恐ろしさを体感し、認識の甘さを痛感しました。反省・学ぶべきことが多かったです。

そのような中で、ＩＣＴ機器を導入し、ＩＣＴ化を進めていくことができました。次年度も継続し、その取り組みをさらに進めていきたいと考えております。また、職員個々の学習レベルを上げる取り組みとして、勉強会・研修会制度の見直しを行い、部署・事業所の枠を超えた連携の強化につながりました。

【稼働率（目標→結果）】入所－９７.０％　→９２.７％
短期－６０.０％　→５３.０％
通所－８０.０％　→７６.４％

２．具体的な取り組みの実績

（１）　「 誠実な福祉 」　の実践

① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
② ご利用者、ご家族、地域、関係機関等のニーズを把握し、より丁寧な説明とサービスの提供に努めました
③ 職員相互が信頼しチームワークのとれた、連携した業務の遂行ができるよう努めました
④ 災害、感染症対策について、より具体的な研修や訓練等を行いました

（２）　「 確実な知識と技術 」　の修得

① 研修会制度等を見直し、職員個々のレベルアップが図れるように努めました
② リスク管理や虐待防止を意識した知識の習得、業務の見直し、環境整備に努めました
③ ＩＣＴ導入による記録等のデジタル化を図りました
④ 介護福祉士等の資格取得挑戦への積極的な支援を行いました

（３）　「堅実な経営」　への取り組み

① 新規入所者受け入れを円滑に進め、空室の期間を短縮できるように努めました
② 新規利用者を確保するため、情報収集を行い、関係機関との連携強化・情報共有に努めました
③ 職員がやり甲斐・生き甲斐を感じられ、満足できる施設づくりを目指します。また、職員へのメンタルヘルスケアの実施とパワハラ、セクハラ、マタハラなどの防止に努めました

３．研修実施報告

（１）　施 設 内（きぼうの苑と合同）

① 三恵会本部主催
新人研修　　他
＊　内容によりオンライン研修等を活用

② 自主研修

4月	虐待防止	１０月	中止（延期）
5月	防災シミュレーション	１１月	虐待防止、褥瘡防止
6月	身体拘束廃止、感染症ＢＣＰ	１２月	身体拘束廃止、感染症シミュレーション
7月	中止（延期）	1月	中止（延期）
8月	中止（延期）	2月	ハラスメント防止
9月	食中毒予防、リスクマネジメント	3月	リスクマネジメント、感染症ＢＣＰ

（2）施設外

① 老人福祉施設協議会関係
→中止またはオンラインにて実施

② 介護職員関係（ノーリフトケア研修等）
→中止

③ 職種別関係
→中止またはオンラインにて実施

④ その他　新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修
→中止またはオンラインにて実施

4．行事報告（年間）

新型コロナウイルス感染防止のため、大規模行事は中止となりました。

＊定期行事：各クラブ活動等

5．地域交流、ボランティア、実習生受入報告

（1）地域交流　　（2）ボランティア活動

※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

（3）実習生の受け入れ

十全看護専門学校ー受け入れ

※その他は新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

障害者支援施設
あ ゆ み 苑

あゆみ苑　令和４年度　事業報告

１．運営の概要

令和４年度は、きぼうの苑と同様に約１カ月間の新型コロナウイルス感染症クラスターにより、経営面において損失を受け、取り組み等についても制限を余儀なくされました。また、感染症の恐ろしさを体感し、認識の甘さを痛感しました。反省・学ぶべきことが多かったです。

そのような中で、ＩＣＴ機器を導入し、ＩＣＴ化を進めていくことができました。次年度も継続し、その取り組みをさらに進めていきたいと考えております。また、職員個々の学習レベルを上げる取り組みとして、勉強会・研修会制度の見直しを行い、部署・事業所の枠を超えた連携の強化につながりました。

【稼働率（目標→結果）】入所－９８.０％　→９５.０％
短期－４０.０％　→２０.１％
通所－８５.０％　→８５.１％

２．具体的な取り組みの実績

（１）　「 誠実な福祉 」　の実践

① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました
② 職員相互が連携・信頼しチームワークのとれた業務の遂行ができるよう努めました
③ 災害（地震・火災・自然等）への取組みとして災害毎の避難訓練を行いました
④ 職員一人一人が誠実に、真摯に業務に取り組み、ご利用者、ご家族との信頼関係を構築しました

（２）　「 確実な知識と技術 」　の修得

① 高齢化が進むご利用者個々の障害特性の把握と事故防止対策の徹底を図りました
② オンライン研修等により障害者支援の理解をより深め、統一した支援対応の徹底を図りました
③ 介護福祉士等の資格取得挑戦への積極的な支援を行いました
④ ＩＣＴ導入による記録等のデジタル化を図りました

（３）　「 堅実な経営 」　への取組み

① 部署ごとに稼働率・ご利用者数等の年間目標を掲げ,達成に向けて取り組むとともに経費節約の取組みを強化し、事業収支の向上を図りました
② 職員がやり甲斐・生き甲斐を感じられ、満足できる施設づくりを目指す。職員へのメンタルヘルスケアの実施とパワハラ、セクハラなどの防止に努めました

３．研修実施報告

（１）　施 設 内（きぼうの苑と合同）

①　三恵会本部主催
新人研修　　他
＊　内容によりオンライン研修等を活用

② 自主研修

4月	虐待防止	１０月	中止（延期）
5月	防災シミュレーション	１１月	虐待防止、褥瘡防止
6月	身体拘束廃止、感染症ＢＣＰ	１２月	身体拘束廃止、感染症シミュレーション
7月	中止（延期）	１月	中止（延期）
8月	中止（延期）	２月	ハラスメント防止
9月	食中毒予防、リスクマネジメント	３月	リスクマネジメント、感染症ＢＣＰ

（2） 施 設 外

① 中・四国身体障害者施設協議会施設長会（研修会）・施設職員研修大会・支援職員研修会
事務管理研修会
→オンラインにて実施

② 愛媛県身体障害者施設協議会施設長会・施設職員研修会
→オンラインにて実施

③ その他 新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修
→中止またはオンラインにて実施

4．行事報告

新型コロナウイルス感染防止のため、大規模な行事は中止となりました。
＊定期行事は実施

5．地域交流、ボランティア、実習生受入報告

（1）地域交流 （2）ボランティア活動 （3）実習生の受け入れ
※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

ケアハウス
夢テラス

夢テラス　令和４年度　事業報告

１．運営の概要

令和４年度は、夢テラス入所者で新型コロナウイルス感染者が発生し、特養や障がい者施設とは違ったケアハウスでの感染対策の難しさを痛感しました。また、心身の機能低下により入院者も多く、取り組みも不十分という結果になってしまいました。

そのような中で、入所者個々への支援強化、勉強会・研修会による職員の知識と技術向上に努めることができました。

【稼働率（目標→結果）】入所－８６.５％　→７１.７％

２．具体的な取り組みの実績

（１）　「 誠実な福祉 」　の実践

① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営の実現を目指しました

② ご利用者、ご家族、地域、関係機関等のニーズを把握し、より丁寧な説明とサービスの提供に努めました

③ ご利用者個々の状態に合わせた支援を行い、安心安全で快適に過ごせる生活環境の整備を行いました

④ 災害、感染症対策について、より具体的な研修や訓練等を行いました

（２）　「確実な知識と技術」　の修得

① 研修会制度等を見直し、職員個々のレベルアップが図れるように努めました

② リスク管理や虐待防止を意識した知識の習得、業務の見直し、環境整備に努めました

③ 関係機関との連携を強化し、情報共有に努めました

（３）　「堅実な経営」　への取り組み

① 入退所を円滑に進め、空室の期間を短縮できるよう連絡調整に努めました

② 新規利用者を確保するため、積極的な広報活動を行います。また、情報収集を行い、関係機関との連携強化・情報共有に努めました

③ 職員がやり甲斐・生き甲斐を感じられ、満足できる施設づくりを目指す。職員へのメンタルヘルスケアの実施とパワハラ、セクハラ、マタハラなどの防止に努めました

３．研修実施報告

（１）　施 設 内（きぼうの苑と合同）

① 三恵会本部主催

新人研修　　他

＊　内容によりオンライン研修等を活用

② 自主研修

４月　虐待防止

５月　防災シミュレーション

１０月　中止（延期）

１１月　虐待防止、褥瘡防止

６月　身体拘束廃止、感染症ＢＣＰ
７月　中止（延期）
８月　中止（延期）
９月　食中毒予防、リスクマネジメント
１２月　身体拘束廃止、感染症シミュレーション
１月　中止（延期）
２月　ハラスメント防止
３月　リスクマネジメント、感染症ＢＣＰ

（２）　施 設 外

① 老人福祉施設協議会関係
→中止またはオンラインにて実施

② 全軽協四国ブロック研修会
→中止またはオンラインにて実施

４．行事報告（年間）

新型コロナウイルス感染防止のため、大規模行事は中止となりました。

＊定期行事：買い物代行　茶話会　誕生会　おやつクラブ　健康体操
気分転換のためのミニドライブ等

５．地域交流、ボランティア、実習生受入報告

（１）地域交流　（２）ボランティア活動　（３）実習生の受け入れ

※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

障害者支援施設
三 恵 ホ ー ム

令和４年度　事業報告

障害者支援施設三恵ホーム

1　経営方針と現況について

令和４年度は施設入所率、短期稼働率、相談事業利用率の向上を第１とし、職員には、目標が数値で見えるようにし、全員が一丸となって施設の運営に努めましたが、利用者の高齢化による障害の重度化や重症化、疾病の重複化や体力の低下が進む中、長期入院や退所者の増加が見られました。また、入所待機者の入所控え等も重なり、満足のいく稼働率には及びませんでした。

令和４年度、稼働目標値を施設入所は９７％、短期入所は５０％、相談支援事業契約者１３０名と掲げていましたが、目標値を割り込み施設入所９０．６％、短期入所４６．１％、相談支援事業の契約者は１３７名という結果に終わりました。

このことについて、令和５年度は障害対象を３障害に広げることに加え、行政、相談事業所等への働きかけを以前にも増して強めて行く取り組みを行います。

次にコロナ禍において中止等を余儀なくされていた事業については「ウイズコロナ」による事業展開を行い、行事の規模を縮小したり、形態を変えたりして利用者にとって「自分らしく、心豊かな、満足のいく生活」を送って頂くことに努めました。

また、慢性的な人材不足の様々な課題に対しては、見直しをして働きやすい環境作りや職員間のコミュニケーションづくり、職場定着やモチベーションの向上を図ることに努めました。

2　重点課題と具体的な取組み

（1）「誠実な福祉」の実践

利用者や家族の個々の思いに耳を傾け、一人ひとりの生活スタイルを尊重し、支援に努めました。

また、利用者の普段の状況を把握しながら自主性を尊重し、健康の管理や機能の低下防止に努めました。

（2）「確実な知識と技術」の習得

オンライン研修を利用して、職員の専門的な知識や技術の習得の機会を作り介護力、看護力等の質の向上に努めました。

また、介護サービスの質の向上、リスクマネジメントの徹底、人材の育成にも努めました。

（3）「堅実な経営」への取り組み

コロナ禍において、出来る限り地域に施設の情報発信をし、短期利用者に対しては感染防止対策を行い、利用稼働率向上に努めました。

ただ、今年度において行政機関との連携や各種相談事業等との連携は行ってきたものの、繋がりの弱さを感じた１年でした。

今後は連携の強化に努めて参ります。

3　研修計画

（1）施設内

ア　年間研修計画（毎月１回）に基づき、オンライン等を活用し、研修を実施致しました。

イ　施設内外研究の資料作成の充実を図りました。

（2）施設外

ア　全国身障協職員研究大会（中止）

イ　中・四国身障協施設長総会及び研修会、事務管理研修及び支援職員研修大会、職員研修大会はオンラインにて参加致しました。

ウ　県内身障協職員研修会、サービス管理責任者研修会はオンラインにて、参加致しました。

エ　職種別専門研修会を実施しました。（オンラインにて）

オ　三恵会本部主催の職員研修等オンラインにて参加しました。

4　行事予定

４月　ドライブ外出、藤の花鑑賞会（利用者・職員で小規模実施）

５月　愛媛県障害者スポーツ大会（中止）

８月　夕涼み会（利用者・職員で小規模実施）

９・２月　防災訓練（地震・土砂災害、火災想定訓練等を東温市、東温市消防と報告や通報等、部分連携により実施）

１２月　餅つき大会、クリスマス会、忘年会（利用者・職員で実施）

１月　鏡開き（利用者・職員で実施）

２月　節分豆まき（利用者・職員で実施）

5　地域交流、ボランティア、実習生

（1）地域交流

ア　東温市身障協助会との交流（中止）

イ　川内保育園との交流（中止）

ウ　川内中学校との交流（中止）

エ　東温市仲間づくり事業交流（励ましの作品交換、ビデオレターを作成）

（2）ボランティア活動

ア　職員ボランティア活動

・地区の春の井出清掃と秋の道づくり（コロナ感染防止のため欠席）

・国道１１号歩道の生垣の清掃　隔月１回（実施）

イ　ボランティアの受入れ

・ボランティアの受け入れ（HATACHI の会、車いす磨き）

（3）実習生の受入れ

・河原医療福祉専門学校

児童福祉施設
十全保育園

令和４年度事業報告

1. 経営方針

令和４年度も令和３年度に引き続きコロナウイルス感染は収まらず、令和４年度は児童の約半数の児童が感染してしまいました。また、職員の感染、濃厚接触者による欠席等、保育にも大きな影響がありました。

保育については、令和３年度のコロナ禍での対応の教訓を活かし、行事・保育を制限しつつも、子ども達の発達を保障するため、職員の間で討議し感染予防・保育を進めていきました。保護者の方にも感染状況を伝え理解を得ながら、子ども達の成長を確認していく場を大切にしていきました。

保育については、各クラスの中で発達において気になる子が徐々に増えてきていることを特に感じるようになってきました。日々、家庭の子育ての中で「あたりまえ」にできていたことができにくくなってきており、保護者自身も子どもに対して、どう関わって子育てをすればよいのか、子育てがしんどいと感じる保護者が多くなってきました。子どもの発達において、何ができるのか、何が苦手と感じているのか、どのような支援が必要なのか、保護者に対しても成長したことだけを伝えるのではなく、子どもにとって、何を大切にして子育てをするのか、具体的にこういう関わり方を家庭でもしてほしいと伝えていきました。

令和５年度がスタートし、感染に対して油断はできませんが、以前の保育にもどりつつあります。本来、目指すべき保育のあり方をもう一度確認しながら、さらに職員全員が知恵を出し合い、日々の保育が子ども達にとってより楽しく魅力的なものであり、保育内容の質が向上していくよう保育を進めていきたいと考えています。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

（1）「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

・新型コロナウイルス感染に対して、感染予防の消毒や換気を行い、児童・職員の体調管理を徹底した。特に体調管理については、その日の状況だけでなく、病気の経過や観察を細かく行い記録した。感染した児童に対しても家庭への連絡を密にとり、子どもの健康状態の把握に努めた。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

・発達支援課の巡回相談から、就学相談につなげ、安心して就学できるようにしていった。サポートファイルを作成し、入学前に小学校へ行く経験も試みるようにした。入学後も子どもの様子を確認している。

・発達面で気になる子は保護者に来園してもらい話し合い、専門家を交え、発達の課題を明確にしていった。

・保育園の行事の取り組み等により、園児ひとり一人の発達が促され、今までの保育の成果を確認していった。
・コロナ禍の中でも感染予防に努めながら、保護者の理解・協力のもと、行事を実施することができ、子どもの精神面においても成長が伺える場面を設定できた。

（2）「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上について

・キャリアアップ研修では、計画的にリモート研修参加することができ、普段、研修できない専門的な内容を学ぶことができた。また、研修後のレポートも制限のある中でまとめる作業を経験した。

②職員の業務内容について

・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めた。特に栄養士は、食育活動での保育士と連携が図れ、計画的に進めることができた。
・行事においては、連携・協力し合い、取り組むことができた。また、早めの取り組みで計画的に進めた。コロナ禍を意識した取り組みを行い、職員の創意工夫が活かされた。
・クラスの状況、感染状況、欠席状況により、クラスを越えて、職員同士が助け合い、効率的な保育や業務を行う体制ができた。

（3）「堅実な経営」の実践

・児童数に対して、適切な保育士の配置を検討し、その中で、いかに中身が充実した保育が行えるか意識した。
・消耗品の在庫管理を徹底し、無駄な備品の消費軽減に努めた。

3．研修実績

（1）施設内

・職員会・先任者会・主任会（随時）

（2）施設外

・保育協議会研修
キャリアアップ研修(リモート)　　等

４．行事実績(年間)

４月　健康健診
５月　野菜苗植え・種まき・歯科健診
６月　保育参観
７月　七夕会・プール開き・就学相談・夕涼み会ごっこ・(園内)・就学相談
８月　プール大会
９月　敬老の日にちなんでの葉書投函
10月　運動会・お祭り集会(園内)・交通安全教室
11月　マイントピア別子遠足（年長児)・七 五 三・職場訪問(消防署、西原郵便局)
　　歯科検診・巡回相談・遠足(乳児・幼児)
12月　火遊び防止教室・もちつき・クリスマス会・健康診断・巡回相談・保育参観
１月　新居浜ネットワーク「もうすぐ一年生」撮影
２月　節分・生活発表会（たのしいあつまり)・年長児お茶会・記念撮影
３月　交通安全教室・プラネタリウム見学(科学博物館)
　　乳児遠足・お別れ遠足(園内)・お別れ会・卒園式

(毎月実施)身体測定・避難訓練　　(随時)なかよしの日《異年齢交流》

５．地域交流、ボランティア、実習生

※コロナウイルス感染予防のため、交流はなかったが、新居浜西高等学校の学生が、手作りおもちゃを作って持ってきてくれました。

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

令和４年度　事業報告

１，経営方針

黒字体質の確立を必達条件とする。及び長期的安定経営のできる職員配置体制の構築を年間事業計画としコロナ禍の中通年運営を行ってまいりました。

最終決算を迎えるにあたり、何とか黒字を堅持し最低限の運営は出来たかと思いますが、事情はどうであれ入所稼働の改善(90%目標→83.4%)及び通所介護の稼働（86%目標→78.9%）が当初予定には遠く及ばず、苦戦を強いられました積極的な事業活動が殆ど出来ない中、施設整備の延期・修理案件の次年度回し等内面的やり繰りで黒字化を前提に決算に至った次第です。

一方、長期的安定経営のできる職員配置体制は施設内異動や法人内異動また数名の看護師・介護員新規採用により働きやすい環境を整える事ができ、令和５年度における前年決算を大きく上回る準備が出来たと考えます。

２，重点課題、具体的な取り組み

（１）誠実な福祉

・情報の共有と確実な伝達・・・・・・・・・・・達成

・基本に基づいた確実な介護と看護の提供・・・前年より向上

（２）確実な知識と技術

・無資格者介護職員の認知症研修の受講・・・・介護福祉士５名合格

・職場内研修の充実と実行・・・・・・・・・・・一部外部講師変更の上達成

（３）堅実な経営

・当初予算のの必達・・・収入▲７４５万、繰入金▲１０８万・・・未達

・在宅部門収益の強化（外部への働きかけ）・・・未達（外部活動出来ず）

３，研修計画

（１）施設内研修

・部署別研究発表（職場全体会開催時）・・・・達成

・テーマ別研修（年間２～３回）・・・・・・・未達

（２）施設外研修

・老施協主催研修会への参加・・・・・・・・・・１回参加（４月）

・認知症研修への参加・・・・・・・・・・・・・未達

４，行事予定

◎施　設・・・・・コロナ対策上中止した。

◎デイサービス・・花見（梅・菖蒲・あじさい）、作品作り、運動会（縮小開催）、紅葉見物、Xmas 会・忘年会（縮小開催）、雛祭り・・・上記内容にて開催

５，地域交流、ボランティア、実習生

地域交流・・・・・中止

ボランティア・・・地域清掃、中学生ワークキャンプ感染状況悪く中止

実習生受け入れ・・新居浜南校は感染状況悪く中止、十全看護学校は感染状況軽減にて実施

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

令和４年度　事業報告

リハビリステーション三恵荘

1、運営の内容

令和4年度、経営状況においては当初予算から大幅な収益減という結果となりました。原因としては入所部門でクラスター発生（11 月、12 月）となり入所制限を行ったことによる収入減少、感染対応等による支出の増大です。年間を通して「強化型」「超強化型」を算定することができたものの最終月まで思うような稼働率回復には至らず結果、前年度と比較し延利用者数612名減という結果となりました。通所部門は感染症こそ発生はしなかったものの新型コロナウイルスの影響は変わらず延利用者数983名減となりました。次年度からは感染症分類も 5 類へ移行となります。行動制限も緩和されます。活動は活発化しますが今後も感染対策を継続しながら、入所、通所ともに早期の稼働率回復を第１目標とし取り組んで参ります。

施設整備に関しましては、施設老朽化による不具合が多発しましたが、経営状況を考慮しながら優先度の高いものから修繕、備品の入れ替えを行いご利用者様の環境整備に努めました。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」

①ご利用者・ご家族の多様なニーズを的確に捉え柔軟な対応をしていく。

⇒ケアプランの見直し、ご家族への適宜の報告にてニーズに沿ったサービスの提供に努めました。

②多職種連携による情報の共有にて、ご利用者が快適に過ごせるよう支援していく。

⇒感染対策を実施しながらの会議等を行い、サービス提供に関する情報の共有に努めました。

(2)「確実な知識と技術」⇒感染状況に応じ、オンライン等での研修参加

①各種研修会等への参加を推進し、知識や技術の向上を図る。

（ユマニチュード受講者の増大他）

②職員間で知識や技術の共有を図り、より良いサービスの提供に努める。

（施設内勉強会の拡充）

(3)「堅実な経営」

①安定的な加算の算定にて着実な事業活動収入の増大。

⇒「強化型」「超強化型」の算定がメインとなりましたが、稼働率の低迷にて事業活動収入は前年度と比較し減少となりました。

②費用対効果を常に意識し、ご利用者が快適に過ごせる環境づくりを行う。

⇒経営状況を見ながら修繕、入替等を行い快適な環境整備に努めました。

3、研修計画

【施設内】・認知症研修　・接遇検討会　・感染症対策勉強会
・身体拘束廃止研修　・虐待防止に関する勉強会等
⇒一部感染症対策にて書面会議

【施設外】・老人保健施設全国大会参加
・通所リハビリテーション研究会参加
・ユマニチュード基礎研修参加　等
⇒中止またはオンライン研修

4、行事予定

入所・通所リハビリテーションともに感染状況に応じて一部は中止、可能な行事については感染対策を行いながら実施いたしました。

5、地域交流、実習生、ボランティア

①地域交流
地元太鼓台の訪問、大生院・中萩校区文化祭、ふれあい夏祭り
ピンピンきらり体操、大生院地域食堂参加
⇒感染対策にて一部未実施
②ボランティア受け入れ
地域有志の歌レク等
⇒感染対策にて中止
③実習生の受け入れ
学校等：新居浜南高等学校（オンラインにて実施）
河原医療学院（感染対策を実施して受け入れ）

老人保健施設
希　望　の　館

令和４年度 事業報告

老人保健施設 希望の館

１．経営方針

令和４年度事業計画で掲げた「革新 ～続・感染対策と ICT 化～」「数値目標」について取り組んだ結果を報告します。

（１）入所部門（入所・短期）

目標稼働率 93.2%（補正後）に対し、実績 93.5%となりました。5/20～6/11 に新型コロナウイルス感染症クラスターが発生し、入退所停止にともなう稼働落ち込み（5.6.7 月）の影響から目標値（96%→93.2%）を修正。最終的に補正後目標稼働率は上回る結果となりました。

「超強化型」での加算算定については、コロナ期間中における「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱い」を適用することで、12 ヶ月間通しての算定を達成することができました。

LIFE 加算の栄養マネジメント強化加算・リハビリマネジメント計画書情報加算・科学的介護推進体制加算については、12 ヶ月間通しての算定を達成することができました。

（２）在宅部門（居宅・通所リハビリテーション）

居宅部門については、新型コロナウイルス感染症の関係で各事業所との連携に苦慮、年度末にかけて退職による５名体制→4 名体制に変更となったことも影響し、数値目標 160 名（介護 121 名・予防 39 名）に対し、実績 159.3 名（介護 120 名・予防 39.3 名）と目標値を下回る結果となりました。

通所リハビリテーション事業所については、入所部門の新型コロナウイルス感染症クラスター発生により、5/21～6/14（営業日としては 21 日）まで営業を停止。利用者の事業所変更や家庭内感染等によるお休みが重なり、35 名定員の目標稼働率 66%（23.1 名　介護 18 名・予防 5.1 名）に対し、実績 66.1%（23.1 名　介護 18 名・予防 5.1 名）と、こちらも補正後目標稼働率は上回る結果となりました。

LIFE 加算のリハビリテーションマネジメント加算・科学的介護推進体制加算については、5 月から算定を開始し、11 ヶ月間の算定ができました。栄養アセスメント加算・口腔栄養スクリーニング加算については、コロナ過で体制が整わず未算定となりましたが、R5 年 9 月頃の算定開始を目標に準備をおこなっています。

２．重点課題と具体的な取り組み

（１）「誠実な福祉」の実践

・高齢者虐待防止に向けた指針整備と職員研修の実施 → 指針整備・職員研修実施

・多職種連携によるターミナルケア（看取り）の充実 → 年間 19 名の看取り実施

・感染、災害が発生した場合の業務継続に向けた取り組み → BCP 策定の継続

（2）「確実な知識と技術」の習得

・地域包括ケアシステム実現に向けた在宅復帰支援の継続と地域貢献事業の実施

→ 在宅復帰22名・東温市地域リハビリテーション活動支援事業等職員派遣実施

・LIFE（科学的介護情報システム）への取り組みによる介護サービスの質の向上

→ R4.3～LIFE（科学的介護情報システム）への情報提供開始

・認知症ケア関連資格の取得・リーダーの養成

→認知症介護実践者研修1名取得

（3）「堅実な経営」への取り組み

・LIFE加算の算定開始 → 入所・通所LIFE加算算定開始

・ICT導入によるペーパーレス化の実現 → 継続

・職員配置の見直しによる人件費の削減 → 継続

3．研修計画

（1） 施設内 → 施設内研修については「文章回覧」「オンライン」で実施

（2） 施設外 → 施設外研修については一部を除いて中止・延期

4．行事計画（年間）→ 規模縮小にて実施・一部中止木

5．ボランティア・実習生

（1） ボランティア受入状況 → 車椅子清掃ボランティアのみ限定的に実施

（2） 実習生の受入状況 → 十全医療学院・愛媛医療センター看護学校のみ限定的に実施

通所介護事業所
おいでんや

令和4年度　事業報告

通所介護事業所　おいでんや

1. 経営方針

今年度目指した「感染症 ・ 災害に強い施設」については、4年度に入り7月以降、利用者16名・職員5名が新型コロナウイルスに感染し、7月は2日間の閉所、9月は台風の影響で1日閉所の措置をとることになりました。新型コロナウイルスの感染に関しては、11月から1月の間に猛威を振るい大きなダメージを受けましたがクラスターにまでなることはなく、日頃からの意識づけと消毒の賜物と考えます。

①「困った時に一番に思い出して頼ってもらえる」・・・ 日々の何気ない会話の中で利用者からの「この頃目が見えにくくて…」や「足が痛くて歩きにくいんよ…」「○○したいんだけどこんな時はどうしたらいい？」などの声を聞き、解る範囲でアドバイスをしたりケアマネジャーに繋げて問題を解決の方向に導くことができた事例もありました。

②「できる事は自分でしてもらうよう統一したケア」・・・ 職員の親切心から先回りして利用者様のできる機会を奪ってしまう場面（特に帰りの支度時）もあり、今後もまだまだ継続していくべき課題だと思っています。

③「何事にも柔軟に対応できる力を培う」・・・ 利用曜日や時間の変更などについては、担当職員発信で提案があったこともあり、各々の考える力もついてきたように感じられる1年でした。

2. 重点課題

1)稼働率の向上

①数値目標 … 1日あたり23名以上の目標に対し、平均利用者数17．6名
稼働率70．2%に終わりました。
10月以降大変厳しい状況でした。

②毎月2回の居宅介護支援事業所の訪問は予定通り実施してきましたが、コロナの影響もあり、以前のように事業所内まで立ち入り、雑談も交えながら事業所の話をするようなことにはならず、玄関先でプリントをお渡しして「よろしくお願いします。」に留まっていたのが現状です。しかし、お渡しするプリントには空き状況を記載しておくなどアピールする点はアピールしてきました。

2)職員の資質向上 ・ スキルアップ

今年度も対面での研修の機会はありませんでしたが、リモート研修を受講する機会があり、介護職の多くが受講しました。受講した内容を受け、施設内研修で発表する機会もいただきました。

3)記録の充実

・一昨年度の実地指導時の指摘も含め、多方面からの記録に努めました。

・"いつもと違う"の部分では、まだまだ合格点は出せない状況でした。

3. 研修計画

1)施設内研修

①全体会・スタッフ会・フロア会 … 積極的に参加できました。

②コミュニティ内研修 … 開催の機会がありませんでした。

2)施設外研修

①老施協他の研修 … 積極的な参加はありませんでした。

②法人内外の研修 … 研修、講習、講演会の機会がありませんでした。

4. 年間計画予定

4月	5月	6月	7月
・お花見 （ドライブ含）	・ドライブ	・菖蒲見物	・夏まつり(合) ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・ドライブ ・避難訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物	・校区文化祭 ・紅葉見物
12月	1月	2月	3月
・もちつき(合) ・クリスマス会 ・忘年会	・初詣 ・書初め	・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・避難訓練 ・カラオケ大会(合)

・今年度もコロナの影響を大きく受け、対外的な行事はほぼ実施できませんでした。そんな中でも、3月末に全館合同のカラオケ大会は開催でき、希望の光が見えました。

多機能型事業所
わくわくクラブ

令和４年度　事業報告

多機能型事業所わくわくクラブ

１．経営方針

生活介護事業は、障害の重度化や高齢化によるニーズの多様化や、利用者の地域生活継続への願いに寄り添えるよう、職員の介護技術・資質向上を大きな目標とし、各種研修等へ積極的に参加。利用者及び家族の地域生活継続への想いに細やかにより添えるよう、日々の対話を大切にし関係機関との連携に努めました。

放課後等デイサービス事業所は基本的役割を踏まえ、将来日常生活を円滑に営む事が出来るよう支援すると共に、年齢に応じた育成支援を理解し一人一人に即した支援内容の提供に努めて参りました。

また、新型コロナウィルスをはじめとした感染症予防・災害対策への取り組みを強化し、利用者及び家族にとって安全で安心できる環境を整えて参りました。

２．重点課題と具体的な取り組み

(1)　稼働率の向上

生活介護事業

・一人ひとりの安定的利用にむけ、ご利用者・家族及び関係機関との連携に努めたが、一日利用平均人数 15.0 人と目標達成には至らなかった。新規利用についても受け入れなし。

放課後等デイサービス

・相談支援専門員に早めのアプローチを行った事により、令和５年度の新規利用者を２名獲得する事が出来ました。

・虐待防止、身体拘束廃止委員会の研修に参加した事により、虐待防止に対する意識が高まりました。また、コロナによる利用の減少はあったが、利用者・保護者のニーズに寄り添った支援を行い、継続的に利用して頂けました。

(2)　支援内容の充実

① 多様化するニーズへの対応

生活介護事業においては、障害の重度化・高齢化に伴う利用者のニーズに、幅広く対応できる知識・技術向上に努め、家族の介護負担軽減に努めて参りました。また、放課後等デイサービス事業においても、自立支援と日常生活の充実を図れるよう、関係機関と連携を図りながら進めて参りました。

② 多様な活動の場の提供

生活介護事業の枠にとらわれず、希望者には業者請負作業の安定的な作業提供に努める事で工賃アップを目指し、働く喜び・働く意欲を高めてもらえるよう努めて参りました。また活動内容の充実を図り、一人一人が自らの能力を最大限に発揮し、自己実現できるよう支援して参りました。放課後等デイサービスにおいても、個々の才能を最大限に引き出し「表現できる喜び」を体験できるプログラムの提供に努めました。

③ 社会参加の促進

散歩・清掃ウォーキングでの美化活動を通じて地域交流の促進に努めて参りました。愛媛県障がい者スポーツ大会への参加については中止であったが、作品展に関しては可能な限り参加する事で、利用者がより豊かな社会参加が出来るよう努めて参りました。

④ 感染症・災害対策の徹底。

新型コロナウィルスをはじめインフルエンザ等の感染症予防対策及び、自然災害に備えた、災害対策への取り組みを徹底し、安全で安心できる環境を整えて参りました。

(3) ネットワークづくり

家族交流会の中止を踏まえ、送迎時や各モニタリング会議等で利用者・家族・職員間での情報交換を積極的に図り、相互理解を深めて参りました。その他、関係機関との更なる連携を図り、利用者のより豊かな社会参加を実現できるよう努めて参りました。

3. 行事計画

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・あかがねミュージアム ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ	・マイントピア別子 ・医師の健診	・ドライブ ・干支作品製作 ・おやつ作り ・買い物練習 ・じゃがいも販売	・七夕祭り ・買い物練習
8月	9月	１０月	１１月
・放課後等デイサービス一日外出 ・医師の健診 ・買い物練習	・滝の宮公園 ・科学博物館 ・消防訓練 ・敬老の日の交流行事	・買い物練習 ・地方祭 ・公園外出 ・さつまいも販売	・買い物練習 ・医師の健診
１２月	1月	2月	3月
・クリスマス会 ・イオン作品展	・初詣 ・書初め ・成人式 ・ドライブ ・レクレーション	・節分 ・ドライブ ・レクレーション ・医師の健診 ・	・ひな祭り ・消防訓練 ・カラオケ大会 ・公園外出 ・お疲れさま会

※毎月、清掃ウォーキング・体育館での運動・図書館利用・他事業所との交流等も行う。

地域子育て支援事業（ひろば型）
にこちゃんパーク

令和４年度事業報告

地域子育て支援拠点事業　にこちゃんパーク

１．　経営方針

（１）交流の場と居場所の提供

妊娠期の方や、概ね３才未満の子育て中の親子が気軽に集い、親子同士の出会いと交流を通して、子ども達が自由に遊んだり、家庭的な雰囲気の中で、安心して楽しく過ごせる場を提供しました。

（２）子育て相談

育児に対する不安感・負担感などを理解し、身近な相談相手として、子育ての不安や悩みが少しでも軽減できるよう、支援しました。

（３）情報の共有

市役所の子育て支援課や保健センター（すまいるステーション）、他の子育て支援拠点施設との連絡会を通して、子育てに関する情報の共有に努めました。

２．　重点課題と具体的な取り組み

（１）子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

・週４日、月・火・木・金曜日（祝日、お盆、地方祭、年末年始を除く）を開所しました。

・子育て中の親子の出会いと仲間づくりの援助を行いました。

・安心して遊んだり、自由にかかわり合える場を提供しました。

（２）子育て等に関する相談、援助の実施

・気軽に話せる関係づくりを大切にして、利用者の悩みに寄り添い、少しでも軽減出来るよう、解決に向けた方法を共に考えました。

・知り得た個人情報について守秘・保護に努めながら、安心して相談できるよう配慮しました。

・必要に応じて、すまいるステーションを紹介したり、子育て支援課と連携をとり情報を提供しました。

（３）地域の子育て関連情報の提供

・毎月の行事予定（にこちゃんだより）を発行し、配布しました。

・市内の子育て支援拠点施設や子育て支援センター、児童館や児童センター、子育てサークルなどの予定表を掲示したり、保健センターや子育て支援課からのプリントを配布し、さまざまな地域情報をお知らせしました。

・子育てに関する新聞記事や、地域の行事、講演会などの紹介をしました。

・子育て応援ブックや、子育て応援パスポートなどを説明し、配布しました。

（４）子育ち・子育て支援に関する講習等の実施

・　子育て中の親子のニーズを把握して、講習を計画し、実施しました。
（親子でヨガ・ハーバリウム作り）

・　ボランティアによる活動を計画し、お話会（回転木馬）等、定期的に来て頂きました。

・　身近にある材料を使っての、おもちゃ作りやあそびを紹介し、実施しました。

・ 誕生会で誕生児の手形と写真を撮り、手作りの誕生カードを作成、記念にお渡ししました。

・身体測定（身長・体重）を行い、成長の喜びを共有しました。

（5）新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

・子育て中の親子が安全に過ごせるよう、利用者・職員共に、手指消毒・検温・マスク着用を徹底しました。

・利用者人数の制限（電話での予約が必要）を行って、密集・密接を減らしたり、室内の換気・加湿に気を付けました。（空間除菌脱臭機使用）

・遊具・玩具や室内の消毒・除菌をこまめに実施しました。（オゾン式保管庫など使用）

・施設内での食事は禁止とし、水分補給のお茶は、各自で持参して頂きました。

（6）広報活動

・毎月の行事予定や、活動内容などインスタグラム、三恵会のホームページのブログに掲載しました。

・予定表（にこちゃんだより）を市役所・十全総合病院・川東の公民館４ヶ所に、置かせて頂きました。

・すまいるステーションとの連携により、事業所を紹介しました。

３． 研修報告

（1）施設内研修

・職員全体会

職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修に参加しました。

（2）施設外研修

・新居浜市地域子育て支援拠点事業（全８施設）の連絡会に参加しました。

・にいはまファミリーサポートセンターレベルアップ講習会に参加しました。

４． 行事報告

・ 毎月実施…ボランティアによるお話会（回転木馬）・ハーバリウム作り・親子でヨガ・誕生会（誕生カード作成）・作って遊ぼう（工作）・身体測定（成長記録カード作成）・カレンダー作り

・ 随時実施…館内の高齢者、障がい者との交流など

★子育て相談・・・保育士・理学療法士による育児相談を行いました。

★子育て応援フェスタ in にいはま実行委員会に参加しました。

主な行事内容

	つくって遊ぼう カレンダー作り	誕生会・お話会(回転木馬)・ハーバリウム作り 親子でヨガ・身体測定・その他
4月	かぶと 金太郎＆こいのぼり（5月）	手遊び歌・絵本・リズム遊び・手袋シアター・紙芝居 パネルシアター・折り紙・お絵描き・シール貼り
5月	フリスビー リースのてるてる坊主とカタツムリ、あじさい（6月）	おはなし折り紙・絵本・手あそび歌・パネルシアター 紙芝居・しゃぼん玉あそび・折り紙・お絵描き リズムあそび
6月	あじさいの花時計 アサガオ（7月）	★プチ出前講座、すまいるステーション（歯の話） 折り紙・紙芝居・パネルシアター・手あそび歌・絵本
7月	七夕笹飾り ひまわり＆セミ（8月）	七夕飾りの作成・七夕まつり・うちわシアター・手あそび歌 パネルシアター・絵本・紙芝居・折り紙
8月	コロコロ水槽 トンボ＆コスモス（9月）	マジック・紙芝居・絵本・変身動物・パネルシアター 手あそび歌・シール貼り・切り紙・しゃぼん玉あそび
9月	クルクルストロー ハロウィン（10月）	絵本・手あそび歌・紙芝居・パネルシアター ストローあそび・折り紙・シール貼り ★防火避難訓練（合同）
10月	太鼓台 クリ＆モミジ（11月）	手あそび歌・絵本・紙芝居・パネルシアター 布絵本・折り紙・太鼓あそび・風船あそび
11月	かざぐるま クリスマスリース＆サンタ達（12月）	★子育て応援フェスタ in にいはま（マリンパーク） エプロンシアター・絵本・手あそび歌・パネルシアター 手袋シアター・楽器あそび・折り紙・どんぐり木の実あそび
12月	クリスマスツリー 招き猫＆スタンプあそび（1月）	手あそび歌・絵本・手袋シアター・うちわシアター 紙芝居・パネルシアター・折り紙・クリスマス会 楽器あそび・お絵描き・スタンプあそび
1月	鬼のお面 ペンギンと雪の結晶（2月）	ペープサート・カンカン人形・絵本・紙芝居 手あそび歌・パネルシアター・伝承あそび・お絵描き 切り絵あそび
2月	てるてる坊主の雛飾り お雛さま（3月）	手あそび歌・絵本・リズムあそび・エプロンシアター パネルシアター・お絵描き・折り紙
3月	ペットボトルマラカス 桜（4月）	絵本・手袋シアター・手あそび歌・組み木あそび 紙芝居・パネルシアター・折り紙 ★防火避難訓練（合同）

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

令和４年度　事業報告

地域密着型介護老人福祉施設うみかぜ

１．経営方針

令和４年度は、うみかぜの特性であるユニットケアへの原点回帰を目標に掲げ、ご利用者の個性や生活習慣を尊重し、科学的介護に基づいた個別ケアを推進いたしました。職員の知識・意識向上の為、ZOOM 研修を多く受講し、排泄ケア・栄養・褥瘡マネジメント等の PDCA サイクルを実践することにより、ご利用者の身体的な状況改善の成果を実感いたしました。

施設経営におきましては、入所ご利用者の基礎疾患や骨折による入院が重なり、目標実績稼働率 97.5%に対し 95.6%のマイナス実績、短期入所ではご利用者のコロナ感染によるキャンセルが続き、目標稼働率 88%に対し 82%のマイナス実績となり目標達成はできませんでした。また、光熱水費や物価高騰の影響により大幅な収支差額減となり、経営面で厳しい１年となりました。

２．重点課題と具体的な取り組み

（１）「誠実な福祉」の実践

①感染対策を徹底し、新型コロナなどの感染症の施設内蔓延は防止できました

②防火防災管理者が BCP 研修に参加、災害・感染対策事業継続計画を更新いたしました

③看護師を中心に緊急時マニュアルを更新、各ユニットに掲示いたしました

（２）「確実な知識と技術」の修得

①ノーリフト推進担当者は選定できませんでしたが、ノーリフトを継続しました

②介護基礎研修（オムツの当て方等）を開催し、介護力向上に努めました

③科学的介護委員会を立ち上げ、科学的介護を計画・実践いたしました

（３）「堅実な経営」への取り組み

①目標稼働率の達成には至らず、未達成の要因を検証し次年度達成に繋げます

②施設空調整備の三年計画を立て、一年目の空調整備は完了しました

③毎月の光熱水費使用状況報告を継続し、節電などの節約に繋がりました

３．研修

（１）施設内

・各種指針に基づいた研修（８回）　・介護倫理　・虐待予防

・認知症ケア（2回）　・施設における感染対策（外部講師）

・事故防止研修（２回）　・食中毒予防　・座位保持姿勢について

（２）施設外

・老人福祉施設協議会主催　高齢者の虐待、科学的介護への取り組み

・愛媛県主催　喀痰吸引研修会（リモート研修）

防災・感染症事業継続計画に関する研修

・喀痰吸引等研修（3名参加）

・医療的ケア教員研修（喀痰吸引指導看護師研修）

・ユニット管理者研修会（リモート研修）

・地域密着型サービス協会研修会（メンタルヘルス・認知症について）

４．行事

４月	花見	１０月	太鼓台訪問
５月	ドライブ（ふじ、芍薬見物）	１１月	防火訓練
６月	防火防災避難訓練	１２月	クリスマス会
７月	七夕	１月	初詣
８月	バーベキュー	２月	節分
９月	敬老会	３月	ひな祭り

＜毎月の共通行事＞　ユニット活動（誕生会、おやつ作り、個別外出）、生け花、

５．地域交流、ボランティア

（１）地域交流

・運営推進会議（書面会議５回、施設開催１回）

グループホーム
かがやき

令和４年度事業報告

グループホームかがやき

１．経営方針

令和４年度は、グループホームかがやきに ICT を導入し記録業務の効率化、データ活用による介護の質向上及び、職員間で迅速な情報共有を実施いたしました。導入当初はタブレット入力に戸惑うことが多い様子でしたが、１か月程で ICT 操作に慣れ、ご利用者に寄り添う時間ができました。また記録業務の効率化が図れたことにより、ご利用者の個性に合わせた認知症ケアを推進するカンファレンスを活発に開催、ご利用者と職員の信頼関係を深めるように努めました。

施設経営におきましては、ご利用者の入院等が要因となり目標稼働率入所 99%に対し、98.1%のマイナス実績となり目標を達成できませんでした。また、うみかぜ同様に光熱水費や物価高騰の影響により大幅な収支差額減となり、経営面で厳しい１年となりました。

２．重点課題と具体的な取り組み

（１）「誠実な福祉」の実践

①感染対策を徹底し、新型コロナなど感染症の施設内蔓延は防止できました

②BCP 研修に参加し、災害計画を策定いたしました

③緊急時対応マニュアルを更新し、緊急時に慌てることなく対応できるよう指導しました

（２）「確実な知識と技術」の修得

①ユマニチュード技法を学ぶ機会は設けることはできませんでした

②ZOOM による認知症研修に参加し、認知症の理解を深めました

③ご利用者個々に寄り添った認知症ケアを実践いたしました

（３）「堅実な経営」への取り組み

①目標稼働率の達成には至らず、未達成の要因を検証し次年度達成に繋げます

②施設空調整備の三年計画を立て、一年目の空調整備は完了しました

③毎月の光熱水費使用状況報告を継続し、節電などの節約に繋がりました

３．研修

（１）施設内

・各種指針に基づいた研修（８回）　・介護倫理　・虐待予防

・認知症ケア（2回）　・施設における感染対策（外部講師）

・事故防止研修（２回 ）　・食中毒予防　・座位保持姿勢について

（２）施設外

・老人福祉施設協議会主催　高齢者の虐待、科学的介護への取り組み

・愛媛県主催　防災・感染症事業継続計画に関する研修

・地域密着型サービス協会研修会（メンタルヘルス・認知症について）

４．行事

４月	花見	１０月	太鼓台訪問
５月	ドライブ（ふじ、芍薬見物）	１１月	防火訓練
６月	防火防災避難訓練	１２月	クリスマス会
７月	七夕	１月	初詣
８月	バーベキュー	２月	節分
９月	敬老会	３月	ひな祭り

＜毎月の共通行事＞　ユニット活動（誕生会、おやつ作り、個別外出）、生け花、

５．地域交流、ボランティア

（１）地域交流

・運営推進会議（書面会議５回、施設開催１回）

児童福祉施設
中萩保育園

令和４年度　事業報告

１、経営方針

令和４年度も保育現場においても新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年でした。長期化するコロナ禍のなか、感染予防対策に細心の注意を払いつつ、子ども達の健全育成と保護者支援に努めました。令和５年５月８日から５類となり取り扱いが変わりますが、保育所の感染対策は新型コロナウイルス感染症に限らず、あらゆる感染症拡大を防ぐため、日常の衛生管理をしっかり行っていく必要があります。

また、４年度は、送迎バスの置去りや不適切な保育が問題となり、保護者や社会への信頼が問われることになりました。乳幼児期は生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期です。子ども達が安全や人権を守られた環境の中で、自己を十分に発揮し、のびのびと生活できるようにしていきたいと思います。

老朽化のため進められていた新園舎の建設計画については、令和４年７月より着工、建設が始まりました。令和５年２月より新園舎での生活が始まり、５月末には外構整備も完了しました。多くの皆様のご支援を頂き新園舎建設の完成を迎えることができました。整った環境の下で保育ができることに感謝しながら、新しい保育の在り方を考え、今後より一層、保育の充実を図っていきたいと思います。職員間で協働を図り、子ども・保護者・職員が共に育ちあう保育園づくりを目指していきたいと思います。

２、重点課題と具体的な取り組み

（１）「誠実な福祉」の実践

①子どもの健康・安全な生活を保障する

・朝の受け入れ時の視診、検温などの健康観察を行い、元気に生活できるように努めた。
・毎日、保育室や廊下の消毒を行い、感染症予防に努めた。
・新型コロナウイルス感染症対策に努め、手洗い、室内換気の徹底に努めた。
・安全対策委員を設置、避難訓練や不審者侵入を想定した訓練を行い、危機管理意識を持つように努めた。
・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することができた。今後も生活の場を整備し、子どもの動きを想定することで安全保育に繋げていきたい。

②子どもの健やかな発達を目指した保育

・子どもの気持ちに共感することで子ども達が安心して生活ができるよう環境を整備した。今後も乳幼児期の成長発達を理解し、自己肯定感が育つようにしていきたい。
・基本的生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで成長できるよう丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず一人一人を大切に関わっていきたい。
・戸外遊びを通して体力づくりに取り組んできた。

・児童センターやキラキラ公園まで散歩に行き、自然に触れたり、散歩を通して交通ルールを身に付けたりできるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

・年２回、十全総合病院小児科（長谷川 Dr)、藤田歯科クリニック（藤田 Dr）による検診を受けた。その結果を保護者に伝え、早期治療に繋げている。

・発達支援課による年長児の発音検査を行い、早期発見早期治療に繋げている。

・発達支援課による巡回相談、就学相談を受け、支援を必要とする子どもが無理なく集団で生活ができ、クラスの一員として協調できるように保育している。

・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。情報交換を行った。就学に向けての引き継ぎ、支援を必要とする子のサポートファイル作成等、小学校との連携を取っている。子ども達が小学校生活に期待を持って就学できるよう今後も交流していきたい。

＊各機関との連携は今後も大切にしていきたい。

・上部児童センター運営協議会に参加、子どもを中心に地域との交流を深め、健全育成に係ることができるよう意見交換を行った。

・老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を取っている。

④危機管理対策

・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い、子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。４年度は施設強化加算の申請を行い蓄電池を購入した。また、保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう廊下本棚に配置している。掲示板に避難経路を掲示し、保護者にも知らせている。

・セコムに依頼し防犯対策に努めている。（新園舎に移転後はアルソックに依頼）

＊今後も職員間で危機管理について話し合い、確認することで、防災、防犯意識を高めていきたい。

（２）「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上

・保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、三恵会主催の研修などに参加し資質向上に努めた。また、保育協議会主催のキャリアアップ研修を受け知識を深めることに繋げた。（感染症拡大のため、４年度もリモート研修を受講）

・自己評価をすることで自分自身の反省評価を行い、子どもの活動内容や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲に繋がる保育を目指してきた。今後も職員間での話し合い、共通理解をすることで保育の質の向上に繋げていきたい。

＊日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は前向きに取り組み一生懸命頑張っている。

＊今後も研修、経験を重ねながら専門性を身につけ、また、社会人としても成長していけるよう取り組んでいきたい。

②専門性の充実

・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけた。

・全体計画に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んだ。

・看護師による健康観察、感染症予防についての情報提供などを行った。また、職員に嘔吐物処理の仕方について講習を行い、職員間での周知を図った。

・栄養士を中心に保育士、調理員が話し合いながら食育活動（野菜の菜園、収穫、クッキング、試食会など）を行った。また、アレルギー児の除去食、肥満傾向にある子どもの食について保護者と懇談を行いながら食事の提供を行った。

＊毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを配布した。

（３）「堅実な経営」の実践

・０歳児の途中入所３名を受け入れることができ安定した経営に繋がった。

・定期的に保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、危険個所の修繕を随時行った。

・日々、忙しく業務に追われている中にも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育の仕事に対してのやりがいを感じられるよう、今後も働きやすい環境づくりをしていきたい。

・職員間で備品チェックを行いながら無駄をなくすよう取り組んできた。

３、研修実績

（１）施設内

職員会（クラスの状況報告、気になる子について、給食検討、けがの報告等）、
安全対策委員会、先任者会、主任会

（２）施設外

キャリアアップ研修（リモート研修）
保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）
日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育
三恵会本部主催の研修

４、行事実績（年間）

４月　入園式（中止）、年長児発音検査
５月　遠足、園児歯科検診
６月　わくわくお楽しみ会ごっこ、プール開き
７月　七夕集会、就学相談
８月　プール大会
９月　敬老の日ハガキ投函、年中児眼科検診（中止）
１０月　運動会、お祭り集会、交通安全教室、園児健康診断、園児歯科検診
１１月　遠足、火遊び防止教室
１２月　クリスマス会、新入園児申請書受付、在園児家庭現況届提出、巡回相談
１月　もうすぐ１年生撮影（中止）
２月　節分、たのしいおあつまり（発表会）、記念撮影
＊コロナ感染症防止のため、もうすぐ１年生撮影、発表会はＤＶＤ撮影（無観客）を行った
３月　ひな祭り集会、お別れ遠足、お別れ会、卒園式
＊毎月実施…誕生会、異年齢児交流、食育活動、避難訓練、身体測定など

５、地域交流、ボランティア、実習生

（１）地域交流状況
（２）実習生受け入れ
東雲短期大学（２年生）、聖カタリナ短期大学（２年生）
（３）体験学習の受け入れ
＊４年度も新型コロナウイルス感染症流行のため中止となった。

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

令和４年度　事業報告

養護老人ホーム新居浜市立慈光園

１．運営方針

令和４年度は、平成２５年度から慈光園を新居浜市より指定管理者として受託して以来１０年目の節目の年となりました。１年間を通して新型コロナウイルス感染症流行により、全国の高齢者施設等でクラスターが相次ぎ感染の危機に直面した１年間となりましたが感染症対策ではコロナワクチン接種を年間通じ２回実施し、職員は市町の頻回検査を週２回受検するなどしてパンデミックに対し感染規模を最小限に抑え込むことができました。

また、利用者やご家族様に対しては、面会の制限をするなど期間を定め自粛措置をとりました。感染症予防策としては日々変化する感染状況に応じて臨時感染症委員会を１年間通して１０回開催し、市町と連携をとりながら職員及び利用者の安全配慮に指定管理者として対応しました。

このような中で、利用者の心身の低下による支援の増加、精神疾患を持った方や生活困窮者の入所が多くなるなど自立支援困難者の増加に伴い利用者の個人差が大きくなる中、一人ひとりのＡＤＬに応じた処遇計画を作成し、介護保険サービスの利用や園内行事においても規模を縮小しながら実施し利用者が自主性をそこなわず安心して生活が送れる支援に努めることが出来ました。

２．重点課題と具体的な取り組み実績

（１）「誠実な福祉」の実践

①利用者個々の状態に応じて個別処遇計画に係るＰＤＣＡサイクルに取り組み実践に努めました。

②利用者朝礼において、軽体操を通して健康維持を図りました。
（感染症対策の為、規模を縮小）

③園内におけるクラブ活動や他の団体が主催するイベント等へ出展、創作活動などを推進し、生活意識の向上に努めました。
（感染症対策の為、規模を縮小）

④嗜好調査の実施により季節感や彩に配慮した食事提供に努め、衛生管理と食品管理を適正に行いました。

⑤園近隣における清掃活動を実施するとともに、金栄小学校の１年生を対象とした下校時の見守りボランティア活動を実施しました。

（2）「確実な知識と技術」の修得

①当園での生活が困難となった利用者に対し嘱託医、協力医療機関や介護関係事業所等と連携し、その人に適した施設への処遇替えに努めました。

②研修に関してはリモートを通じて習得しました。（感染症対策）

③愛媛県社会福祉協議会ｅラーニングによるテーマ別の研修に関してはオンラインを通じて習得しました。

（3）「堅実な経営」の取組み

①毎月の予算執行管理を確実にするとともに、財務諸表の点検、月々の変動、経年変化、前年同月比較を実施し経営管理を行いました。

②物品の適正な在庫管理に努め、購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。

③ストレスチエックを実施し、職員のメンタルヘルスケアを行いました。

④社会福祉施設における新型コロナウイルス感染拡大防止策を市町と連携し安全配慮を行いました。

3．研修実績

（1）施設内研修

①職員全体会（月１回）、主任会（月１回）

②ＡＥＤ講習

③愛媛県社会福祉協議会ｅラーニング（テーマ別研修）

（2）施設外研修

①新型コロナウイルス感染症緊急講習会（新居浜市・介護福祉課）

②老人福祉施設協議会主催の研修会

③介護労働安定センター主催の研修会

④三恵会法人本部主催の研修会

4．行事実績

年間を通じて、新型コロナウイルス感染症対策の為、当初の計画に対し外出行事は大半が中止。園内におけるクラブ活動等においては規模を縮小しての実施となりました。

5．地域交流、ボランティア

（1）地域交流

愛媛銀行・新居浜支店ロビー展　展示（利用者の作品）　太鼓台訪問

地域清掃・金栄見守り隊

（2）ボランティア受入

ネッツトヨタ瀬戸内（公用車室内抗菌）